

多摩

組報 多摩 4
 発行日 2004年10月20日
 浄土真宗本願寺派
 東京教区 多摩組
 事務所/長専寺内
 東京都調布市富士見町1-35-4
 〒182-0033 0424-82-3411
<http://www33.ocn.ne.jp/~tamaso/>

東京教区多摩組では、平成十三(二〇〇一)年二月に都留組と合同で石和温泉において開催の教区仏壮記念日研修会を機に、多摩組仏教壮年実行委員会を結成し、研修会の開催を中心とした活動を続けてきました。

このたび、その実績を踏まえて、多摩組仏教壮年会連盟を結成することとなり、本年四月二十三日の組会での承認をうけて、すでに仏教壮年会を結成している、正善寺、誓願寺、明西寺の三カ寺に加えて、光徳寺、西照寺、光源寺、覺證寺、長専寺、専念寺、延浄

多摩組仏教壮年会連盟の結成



第1回理事会



井上幸夫氏 会 計 (明西寺)
 岩永節夫氏 副理事長 (誓願寺)
 大久保賢吉朗氏 理 事 長 (明西寺)
 石岡廣三氏 副理事長 (正善寺)

寺、應善寺、圓成寺、阿弥陀寺、浄弘寺、玄忠寺、延立寺の合計十八カ寺から、理事二十五名が選任され発足しました。

第一回の理事会が、五月二十九日、明西寺において開催され、理事長に明西寺仏壮副会長の大久保賢吉朗氏(東京教区仏壮連盟理事長)が、また副理事長には、正善寺仏壮社会長の石岡廣三氏(前東京教区仏壮連盟理事)、および誓願寺仏壮社会長の岩永節夫氏が選出されました。

また、会計として明西寺仏壮の井上幸夫氏、参与として谷口文夫氏の参加も承認されました。

本年度の活動としては、一月二十三日(土)の午後、仙川の西照寺において、組の連続研修と合同での研修を計画しております。

(大久保)

- p 1 多摩組仏壮連盟結成
- p 2 あきる野本願寺
2004年行事案内
- p 3 法話 細川真彦師
- p 4 仏婦の活動
- p 5 サマーキャンプ
- p 6 住職に聞きました
(お寺を訪ねて)
- p 7 なぜなにQ&A
- p 8 寺院所在地
定例法座案内

築地本願寺あきる野分院

あきる野本願寺

本願寺築地別院あきる野分院（あきる野本願寺）は、本願寺築地別院の東京都内四番目の分院として、二〇〇三年五月に竣工しました。

開設された場所は、昭和四十二年に開園された築地本願寺西多摩霊園の入口部分、滝山街道（国道411号線）沿いになります。



あきる野本願寺正面

この場所は、霊園開園当初から築地本願寺の施設を建立すべく用意されていたもので、実に三十六年ぶりに実現されたことになりました。

ここは緑豊かな丘陵地域で、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」により、国内希少野生動植物種に指定されている、オオタカがときに飛来するそうです。また、近辺は『周知の埋蔵文化財包蔵地』に指定されていて、建設時に敷地全体の六％について試掘調査を実施した結果、住居跡や土師器片などが確認され、発掘調査実施が必要なことが明らかになりました。そして、発掘調査を経て建築に着手されました。この調査により古墳時代の住居跡や遺物多数が確認されています。

また、風光明媚な秋川渓谷や奥多摩が近くにあり、夏にはキャンプやバーベキュー目的の車が多く見られます。

開設当初は参拝者の数も少なく、浄土真宗のお寺だとわかってこられる方は殆どなく、見学というかたちでお墓参りの際に寄られる程度でした。

昨年十月に入仏法要（ご本尊のご安置）を修行した後、築地本願寺の機関誌・築地本願寺新報に記事が掲載されると徐々に参拝の方が来られるようになりました。

最近では墓園の隣に位置する関係上、お墓参りにこられた方々が本堂に入り、手を合わせる姿がよく見られるようになりました。

た。この秋のお彼岸には法話会を初めて開き、お墓参りにこられた方々約二十名ほどが、熱心に聴聞されていきました。

また、本年十月二日には、あきる野本願寺の落慶法要をにぎにぎしく修行いたしました。

現在あきる野分院では、職員が二名常駐し、皆様のご参拝をお待ちしています。

また、ご法要をご希望の方は、必ず所属寺のご住職にお申し出下さい。

（東京都あきる野市菅生六五七―一）



西多摩霊園参道より

「捨てる」ということ

覺證寺住職 細川真彦

「捨てる」ということは、仏教のキーワードの一つです。そもそも仏教は、小国の王子だったお釈迦さまの出家からはじまります。浄土真宗のご開山、親鸞聖人は、二十年間学んだ比叡山の教えを捨てました。

ご開山が比叡山に登って出家されたのはわずかに九歳です。そして生涯の師、法然上人に出会って専修念仏の教えに帰依し、比叡山を捨てたのは二十九歳のときでした。

想像してみてください。今なら小学3年生、腕白小僧の年頃から、思春期を経て学校を出、就職して仕事をそれなりにこなすようになり、出はじめた下っ腹を気にしながら結婚を迷う、そんな三十路まえまでの二十年。それがご開山の比叡山時代に重なる年齢です。

幼い頃から身に染みついた比叡山の生活、考え方、ひたすら学んだ教え、ひたむきに励んだ修行。それらは二十九歳のご開山にとって、人生経験のほとんどすべてだったはず。しかしご開山はそ

れを捨てました。法然上人の説かれた、一切のいのちを平等に救う本願念仏のみ教えのまえに、自らの二十年間の経験を捨てたのです。

ところで私たちは日頃、知識や経験を頼り、学歴や経歴、人間関係や社会的立場などをフル活用して、家族と財産、自分のプライドを守っています。むしろ親鸞聖人が捨てたものを、毎日必死になって大切に守っている。そう言うのもいいでしょう。

しかしそうやって必死に守り、あてにし、頼りにしているものが、老病死という現実の前ではいとも簡単に崩れてしまふ、はかないものであることも私たちは知っています。

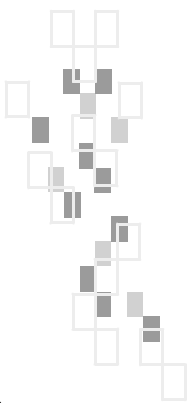
そうした消え失せてしまうものだけを頼り、よりどころとしている自らの危うさにも、薄々は気がついていきます。心のどこかで、本当のよりどころになる確かな世界を探しているのです。

浄土真宗は、変わらない真実の言葉によって、その確かな世界を聞きひらく教

えです。ですから真宗の門徒は（僧侶も）、いわゆる修行はしませんが、み教えを聞く生活を心がけ、お聴聞することを大事にしてきました。

私がどんなに揺れ動いても、しっかりと抱きとつてくださる如来さま。その大悲のお心を聞くお聴聞は、揺れ動く私の知識や常識によって、仏さまを理解しようとするものではありません。私を包んでいてくださる阿弥陀さまの本願の世界を仰ぐ中に、私のすべてを見ぬかれ、そのまま抱かれています私を確認する。それがみ教えを聞くということなのです。

私たちは、釈尊のように家族や財産を捨てて出家することも、ご開山聖人のように二十年つづけた勉強や仕事を捨てることもありません。それでも仏法を聞くときには、やはり捨てるものがあります。それは自分の知識、経験、常識に対するとらわれです。そこにとらわれたまま理解しようとするお聴聞に、安心の世界はありません。「捨てる」ということは、私たちにとっても重要なキーワードです。



多摩組の活動

多摩組仏教婦人会

仏教婦人会綱領では次のように謳われています。

私たち仏教婦人は真実を求めて生き抜かれた親鸞聖人のみあとをしたい人間に生まれたい尊さにめざめ、深く如来の本願を聞きひらき、み法の母として念仏生活にいそみます。

- 一、ひたすら聞法につとめ、慈光に照らされたい日々をおくりたい。
- 一、念仏にかおる家庭をきずき、仏の子どもを育てたい。
- 一、「世界はみな兄弟」の教えにしたがい、み法の友の輪をひろげたい。

多摩組の各寺院の仏教婦人会では、この綱領に従い、実践することを日々努力しておられるようですが、なかなか思うよう願うようには行われていないのが現実のようです。

しかし多摩組では、アテネオリンピックで金メダルを取った水泳の選手が言っていたように、「あせらず、あわてず、あきらめず」に行こうと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

さて、多摩組仏教婦人会では毎年3月に合同研修会を開かせて頂き、様々な方面で活躍の先生方のお話を聞かせて頂いております。過去の例をいくつか挙げてみますと、平成十二年には岡百合子先生に「仏さまのまなざしに気づくとき」、平成十三年は池田行信先生に「いのち」という題で、平成十四年には白川淳敬先生に「いのちの尊さ」、平成十五年は映画監督の松林宗恵先生に「今こそお念仏を」、今年一月に宮崎幸枝先生に「末期医療について」と題してお話して頂きました。

それぞれに深い感動と感銘を受けたことを思い出します。

他のお寺の方々とお会いして議論を交わしたり、お茶を頂いて親睦を深めたりして、非常に有意義で楽しい研修会であったと思います。

これからも研修会には一人でも多くの方が参加して下さいよう、また、各寺院においては仏教婦人会の結成と教区への登録を切に願ってやみません。

仏教婦人会の組織が大きくなると活動にも活気と力が出てきます。お念仏の輪も大きく広がっていくと確信しております。(岡本)

テレホン法話

「こころの電話」(築地本願寺)
電話で聞こう3分間法話

03 (3541) 0282
03 (3541) 0294

多摩組親鸞塾(多摩組連続研修会) ~いのちの糧講座~

- 第3回講座 12月18日(土)
会場 延立寺(八王子)
講師 山崎龍明師
- 第4回講座 1月23日(日)
多摩組仏壮研修と合同
- 第5回講座 2月19日(土)
総代研修と合同
- 第6回講座 3月12日(土)
多摩組仏婦研修と合同

行事・お知らせなど

多摩組ホームページURLの変更
プロバイダーの合併により、ホームページのアドレスが下記の通り変更になりました。

新アドレス
<http://www33.ocn.ne.jp/~tamaso/>

多摩組サマーキャンプinふじの



「おーい 集合！」 広い芝生広場で

八月五日から六日まで、本年度で第十回目となる、『多摩組サマーキャンプ』を神奈川県藤野町にある「藤野芸術の家」にて開催いたしました。

毎年リピーターも増え、本年は参加児童六十四名・スタッフ二十七名の計一〇一名、バス二台という規模となりました。

調布仙川の明西寺に集合、おつとめや作法の練習をし、みんな神妙な面持ちで開会式が行われました。

「藤野芸術の家」では、学年男女混成の班で活動し、上級生が下級生の面倒を見る



おあさじ終了後のお焼香

という、頼もしい姿が見られました。夜は、冷房完備というとても恵まれた環境のせいで、朝までぐっすり。翌朝のおあさじでは、青空の下、蝉の声に負けない元気な声で、おつとめをする子供たちの姿に感動しました。バーベQや川遊び、夜の集い（キャンプファイヤー）など、猛暑にも負けず子供も大人もワイワイと大騒ぎ。クラフト体験では、ガラス細工や風鈴の絵付け、ライダー作りと、子供たちは真剣な顔つきで製作していました。すべての日程を終え、明西寺に帰り閉会式。終了証と記念品をいただき解散。合掌すら知らなかった子供たちが、閉会式では自然と姿勢をただしお参りする光景を見ると、子供のころからのお育ての大切さを、改めて気づかされることでした。

最後には、「来年も会おうね」という声でいっぱいの本堂でした。昨年小学生六年だった子供たちが中学生となり、サブリーダーとして参加してくれるようになりました。今後の課題として、せっかく育ってきた芽が大切に伸びていくよう、学生のスタッフの育成も必要となってくるものと思われ
ます。
(円城)

8月5日(木) 第一日目	8月6日(金) 第二日目
8:00 参加者集合・受付・班分け 作法・歌唱指導	6:30 起床・洗面・朝の散策
9:00 開会式(調布・明西寺) 勤行・讃仏歌・挨拶	7:00 おあさじ(朝の勤行) 勤行・仏さまのお話・歌
10:00 出発(貸切バス2台)	8:00 朝食(レストラン)
11:30 「藤野芸術の家」到着 班ごと昼食	9:00 清掃・荷物整理
13:00 班名・夜の集い練習など	10:00 クラフト 小1~2ライダー 小3~4風鈴絵付け 小5~6ガラス工作
13:45 水着に着替え川遊び	12:00 昼食(レストラン)
15:30 シャワー・おやつ	13:00 広場で遊ぼう (芝生広場で自由に)
17:00 夕食・バーベQ	14:30 「藤野芸術の家」出発
19:00 夜の集い(芝生広場) 班ごとスタンツ	16:00 閉会式(調布・明西寺) 勤行・修了証授与 閉会の言葉
20:00 入浴・就寝準備	17:00 解散
21:00 就寝・消灯	
22:00 スタッフ会議	

住職に聞きました

お寺を訪ねて

浄弘寺（青梅市河辺町）

JR青梅線の小作（おざく）駅より西方に向かつて歩くこと十分。広々とした若草公園の正門前に、お訪ねする浄弘寺の瀟洒なたたずまいがありました。

浄弘寺は、浄土真宗本願寺派（お西さん）の寺院です。

ご住職の内手弘充師は、茨城県岩井市にある浄国寺の次男として出生されました。小さい頃から、将来はお寺のお坊さんになるのだと決意され京都に学ばれました。その後、港区三田の仏教伝道協会にお勤めになりながら、首都圏での都市開教寺院の創設を目指し、都内の最も西に所在する青梅市に、浄弘寺の前身である多摩布教所を創



本堂にて 内手弘充ご住職



門信徒会館

つぱいになり、小さくても早く本格的な本堂をと、願われたとのこと。

平成二年に用地を取得。本堂の造営を先行し、平成八年に門信徒会館を建設。現在の姿になりました。お寺の造作は、お参りの人びとの足腰を鑑みて椅子席とし、七〇八〇名規模の集まりに適した構造となっています。

境内を見渡すと墓地が造成されており、その中でひとときわ異彩を放っているものが「有縁廟（うえんびょう）」です。

有縁廟は、古いしきたりや慣習にとらわれない方や継承者がいない方などにご利用いただける合祀墓であり、『宗旨宗派を問わず・俗名可』とのことであり、新たなご法縁を育む方々を受け入れています。

とくに、この有縁廟は年間管理費を納めなくてもよいとのことであり、今後ご利用される新たな門信徒の増加が期待されるこ

建されたのが昭和六十三年の事とつかがいました。

当時は、一軒家を借家

し、台所の隣の六畳間が、

ご本尊のおわ

します本堂

で、ご門徒数

人が座るとい

とでしよう。

浄弘寺では、定例法話会を毎月第三土曜日に開催され、たくさんのご門徒の方が聴聞に見えられております。春・秋彼岸会、盂蘭盆会、報恩講（親鸞聖人ご命日）などの年間行事が修行されており、本年の報恩講は、十一月二十三日（祝日）に予定されております。

また、浄弘寺門信徒会が平成十四年に発足。今年六月には親鸞聖人の内室、恵信尼公廟墓の巡拝旅行を行ってきたと、慶びを語っておられました。

四十歳代の住職は坊守とともに、高二・中三の男子、小六の女子に恵まれ、多摩組の中堅僧侶として、浄土真宗に帰依する人びとを発掘し、人類永遠の福祉（幸福）に貢献してゆかれることでしょう。

今回の取材にあたって、まさにご開山親鸞聖人の関東ご教化のすがたを、ご住職の上にお観たのは、私のみならず同行した二人ともが感じたことでありました。



本堂 椅子席



有縁廟

（西川・大久保・石岡）

なぜ？なに？

Q&A

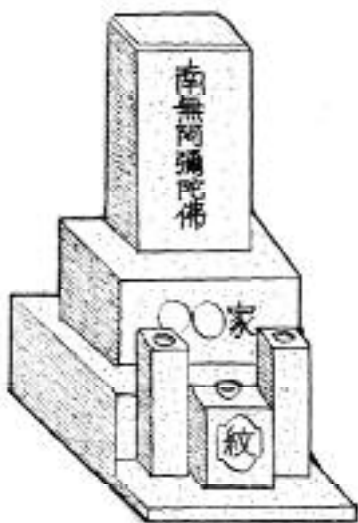
お墓について教えてください

お墓は、故人の遺骨を安置し、またそれをご縁に阿弥陀如来のお救いを喜ばせていただく大切な場所です。お墓を建立される時は、まずご住職にご相談ください。

最近は、伝統や習慣にとらわれない個性的なお墓も増えています。

しかしその中で、浄土真宗らしさを失わないお墓の形とはどのようなものなのかを考えてみたいと思います。

浄土真宗のお墓は、正面に「南無阿弥陀仏」と刻みます。「家」というのは、その下に横に刻みます。「必ず救う」と誓われた阿弥陀如来にすべてをお任せするのが浄土真宗です。墓石を拜むのではなく、阿弥陀如来のお救いを仰ぎ拜むのです。



場合によっては、『仏説阿弥陀経』の「俱会一处(俱に一处で会う)」というお言葉も刻んでも構いません。

また、浄土真宗には墓相という考えはありません。お墓の向きや方角によって幸・不幸になるとするのは、仏教の根本思想である因果の道理に反します。どのような向きや方角で建ててもいいのです。

ただし、お墓の建て方や形にはいくつかの決まりがあります。

五輪塔のような墓石は、浄土真宗にはふさわしくありません。梵字も入れません。

また、阿弥陀如来にすべてをお任せするという教えによって、観音菩薩像や地藏菩薩像など、他の仏・菩薩像は建立しません(する必要がないのです)。

卒塔婆も立てません。塔婆とは、お経の文言や戒名、立てる人の名前を書き、故人の追善供養のために立てるものです。

阿弥陀如来の本願のはたらきによって、往生即成仏させて頂く教えをいただく私たちには、塔婆を立てて追善供養する必要がないのです。

また、墓石の建立年月日に「吉日」と入れる必要はありません。

他宗で行われているもろもろのことが、なぜ浄土真宗で必要がないのか、そのところをよく聞かせていただきたいと思います。

お墓ができたなら、「ご住職に建碑(けんぺい)法要をお願いします。

この法要は、いわゆる「開眼供養」や

「魂入れ」とは違います。墓石が建つたことを阿弥陀如来に報告し、お救いをあらためて喜ばせていただく法要です。

尚、その際にはお塩やお米、お酒などは用いられません。仏教の教えには本来「清める」という考え方は存在しません。

近頃は、ライフスタイルや価値観が変化し、お墓に対する認識も随分変わってきました。そうした中で、後継者のいない人でも入ることのできる合葬墓が注目を浴びています。これは多くの人が一緒に入ることのできるお墓で、お寺や墓地管理者が永代にわたって管理を行うというお墓です。

多摩組内のお寺にも合葬墓をお持ちのお寺がいくつかあります。興味のある方はご住職にお尋ねください。

お墓は大切な場所でありますが、お墓参りだけしていいという訳ではありません。やはり、お寺参りがあってこそのお墓参りなのです。お寺のお墓にお参りされるときは、まずご本堂に合掌礼拝し、法要や法座があれば進んで聴聞をしたいものです。

(藤原)



西本願寺(京都・本山)

電話 075(371)5181

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町

FAX 075(351)1211

本願寺築地別院(築地本願寺)・東京教区教務所

築地別院電話 03(3541)1131

〒104-8435 東京都中央区築地3丁目15番1号

教務所電話 03(3541)1666

東京教区多摩組寺院所在地

調布市

光徳寺(こうとくじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-38-27

03(3300)6431 FAX03(5384)3344

明西寺(みょうさいじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-43-5

03(3300)1901 FAX03(3300)2681

延浄寺(えんじょうじ) 〒182-0006
調布市つつじが丘2-30-1

03(3326)7337 FAX03(3326)5037

長専寺(ちょうせんじ) 〒182-0033
調布市富士見町1-35-4

0424(82)3411 FAX0424(98)1105

西照寺(さいしょうじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-39

03(3300)7734 FAX03(3300)7794

光西寺(こうさいじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-44-2

03(3300)5054 FAX 同左

光源寺(こうげんじ) 〒182-0006
調布市西つつじが丘2-30-11

03(3300)0881 FAX03(3308)6289

覺證寺(かくしょうじ) 〒182-0033
調布市富士見町1-35-4

0424(82)5556 FAX0424(80)0166

正善寺(しょうぜんじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-42-5

03(3300)6064 FAX03(3300)6687

安養寺(あんようじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-44-5

03(3307)5605 FAX03(3307)5496

圓福寺(えんぶくじ) 〒182-0022
調布市国領町1-10-11

0424(82)7955 FAX0424(81)4734

国立市

應善寺(おうぜんじ) 〒186-0002
国立市東2-2-1

042(572)0043 FAX042(572)0148

小平市

照恩寺(しょうおんじ) 〒187-0041
小平市美園町3-23-20

042(341)2935 FAX042(347)4122

立川市

光西寺(こうさいじ) 〒190-0021
立川市羽衣町3-20-16

042(522)3413 FAX042(524)7788

青梅市

浄弘寺(じょうこうじ) 〒198-0036
青梅市河辺町8-19-8

0428(32)1769 FAX0428(32)2010

八王子市

専念寺(せんねんじ) 〒192-0063
八王子市元横山町2-14-24

0426(44)3491 FAX0426(48)6087

誓願寺(せいがんじ) 〒193-0816
八王子市大楽寺町209-5

0426(51)0073 FAX0426(51)6183

光照寺(こうしょうじ) 〒192-0912
八王子市絹ヶ丘3-8-1

0426(35)3754 FAX 同左

本光寺(ほんこうじ) 〒1923-0832
八王子市散田町4-40-10

0426(64)2196 FAX0426(63)2501

延立寺(えんりゅうじ) 〒193-0802
八王子市犬目町681

0426(54)2429 FAX0426(54)6930

大恩寺(だいおんじ) 〒193-0943
八王子市寺田町1085

0426(68)0889 FAX0426(68)1825

町田市

圓成寺(えんじょうじ) 〒195-0004
町田市鶴間1210

042(795)0181 FAX042(795)0444

圓成寺出張所(えんじょうじ) 〒194-0035
町田市忠生3-24-13

042(792)3007

町田布教所(まちだふきょうじょ) 〒195-0063
町田市野津田町2534-20

042(737)3236 FAX 同左

多摩市

阿弥陀寺(あみだじ) 〒206-0013
多摩市桜ヶ丘1-24-2

0423(75)8055 FAX0423(37)4889

稲城市

玄忠寺(げんちゅうじ) 〒206-0822
稲城市坂浜878-6

0423(31)3655 FAX0423(31)3511

◆ 定例法座予定 ◆

(必ず電話にて日時をご確認の上、お出かけ下さい。)

安養寺 第1日曜
西照寺 毎月8日・第4土曜(親鸞会)
正善寺 第1日曜(1日なら8日)
専念寺 隔月1回
延浄寺 毎月29日・第2土曜(門信徒会)
光西寺(立川市) 毎週金曜晚・各種仏教講座
應善寺 毎月1日・16日
圓成寺 毎月28日
圓成寺出張所 毎月10日(休日なら翌日)
照恩寺 毎月13日・第1土曜・第4土曜
大恩寺 第2土曜・第4日曜・第1土曜(婦人会)

誓願寺 毎月4日・第3日曜
浄弘寺 第3土曜
玄忠寺 第3日曜
延立寺 第3土曜・第1火曜(婦人会)
明西寺 毎月10日前後予定(婦人会)
4月・8月・1月(壮年会)
覺證寺 第1土曜
光源寺 隔月奇数月
阿弥陀寺 年3回・毎月28日(明宝会)
本光寺 不定期(お問い合わせ下さい)
町田布教所 第2土曜・23日前後の平日(順不同)